

01

知識

お金と賢くつきあっていくために。 ～借金の作法(その4)～

借金の作法。今回は二番目の作法である「実際に必要な金額だけを借りる」について解説したいと思う。読者の中には「必要な金額だけを借りる、そんなことは当たり前ではないか」と感じられた方もいるだろう。しかし借金をする人のほとんどが現実的に「必要以上」の借金をしてしまう。なぜだろうか。

その理由の一つとして挙げられるのが、クレジットカードなどでよく知られる「利用限度額」の設定だ。利用限度額とは、実際に利用できる融資可能額のこと。仮に限度額が50万円のカードであれば、融資残高が50万円を超えない限り、何度でも繰り返し利用することができる。限度額の範囲内であればいつでも必要な時に、必要な金額だけ借りることが可能な上、返済方式がリボルビング払い(リボ払い)であれば利用回数にかかわらず、利用残高に

応じた一定額を返済していただくだけでよいので、急激な返済の負担増を心配する必要もない。確かに急な入用ができた時、限度額に余裕のあるカードが手元があればすぐに現金を用意することができ、非常に便利で手軽に感じることだろう。しかしこの「いつでも使える」という安心感が皮肉にも unnecessary な借金を生む原因にもなっている。

クレジットカードの利用明細があれば手元に用意してほしい。そこに書かれているカード利用履歴を見たときに、本当にすべて「使わなければいけない」ものだったと断言できるだろうか。「衝動的、あるいは今すぐには必要ない買い物」や「別の支払いに充てる為の借金」などはなかっただろうか。利用限度額は「いつでも借りることができる」ものであって「今すぐ借りてしまわなければいけない」ものではない。限度額に余裕があるからと油断せず、「本

当に必要な金額だけを借りる」ことを習慣にしよう。次号も引き続き二番目の作法について解説していく。

日本ファイナンス有限会社

下関店 店長

松原 剛

AFP(日本FP協会認定)

TEL 083-234-3544

<http://nihon-finance.com>

借金で苦しむ人への的確なアドバイスで定評がある、消費者金融のプロフェッショナル。弁護士の人脈、債務カウンセリング、真摯に相談に乗る姿勢が認められ、感謝の声が多数寄せられている。ラジオなどのメディア出演を通して、借財に対する正しい認識を広めている。

